



倉敷管弦楽団 第49回定期演奏会





2023年7/9 開場/13:00 開演/14:00

会場 食敷市民会館 (食敷市本町17-1)

主催:倉敷管弦楽団

共催:倉敷市文化連盟

後援:岡山県/倉敷市

(公財)岡山県郷土文化財団

(公財) 倉敷市文化振興財団

山陽新聞社/ RSK 山陽放送

OHK 岡山放送/ KSB 瀬戸内海放送



倉敷市長 伊東 香織

倉敷管弦楽団第 49 回定期演奏会が、盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

倉敷管弦楽団におかれましては、岡山県を代表するオーケストラとして、多くのファンを魅了し続けられ、本市の音楽文化の発展に多大な貢献をいただいていることに、感謝を申し上げます。

今回の演奏会では、昨年に引き続き、松井慶太氏を指揮者としてお迎えし、ドイツ・ロマン派の三傑であるワーグナー、リスト、ブラームスの名曲を演奏されると伺っており、御来場の皆様には、大迫力のオーケストラサウンドを御堪能いただけるものと存じます。

結びになりますが、本演奏会の御成功と倉敷管弦楽団の今後ますますの御活躍・御発展をお祈りいたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



倉敷管弦楽団 団長 菊池 東

本日は、倉敷管弦楽団第 49 回定期演奏会にご来場頂きまして、 誠に有難うございます。

コロナ禍の為、中断されていました楽団の演奏活動も、徐々に再開できるようになり、昨年の8月には、岡山のシンフォニーホールで定期演奏会を開催する事ができました。

又今年の3月には、4年ぶりとなる倉敷音楽祭にも参加でき、

1500 名近い聴衆の皆様に倉敷管弦楽団の久々のサウンドを楽しんで頂きました。

本日は日本人が好むドイツ・ロマン派の三傑 ワーグナー・リスト・ブラームスの名曲 を集めた演奏会となっています。

19世紀前半から後半までほとんど同世代で活躍し、影響しあった三傑の音楽を、お楽しみ頂ければ幸いです。

指揮は前回の定期演奏会に引き続き、若手のホープ 松井慶太氏です。

音響の素晴らしい倉敷市民会館で49年目の倉管サウンドをお楽しみください。

リヒャルト・ワーグナー 楽劇「ニュルンベルグのマイスタージンガー」より "第1幕への前奏曲"

フランツ・リスト 交響詩 「前奏曲 (レ・プレリュード) |

< 休憩>

ヨハネス・ブラームス交響曲第3番 へ長調 作品90

お客様へのお願い



携帯電話の電源をお切りください。

マナーモードでも、作動しますと近くの方のご迷惑になる場合があります。その他にも、アラーム付き腕時計など、音が鳴らないようご配慮ください。



撮影、録音はお断りいたします。

開演中の許可のない写真撮影、録音、録画は堅くお断りいたします。



補聴器のご利用にはご注意ください。

補聴器を正しく装着されていない場合、音を発する場合がございます。 音漏れがないよう、しっかりと装着し、適切な音量に調整をお願いいたします。



指揮者/Conductor 松井 慶太



Twitte

1984年青森県八戸市生まれ。

3歳よりピアノ、15歳よりオーボエを学び、16歳のときピアニストとしてポーランド国立クラクフ交響楽団と共演。2007年、東京音楽大学指揮科卒業。指揮を広上淳一、汐澤安彦に師事。2006年、韓国で行われたアジア・フィルハーモニック・オーケストラにて指揮をチョン・ミョンフンに師事。

2009年、第15回東京国際音楽コンクール入賞・奨励賞受賞。

これまでに、ライプツィヒ交響楽団、プラハ交響楽団室内オーケストラ、

ドナウ交響楽団、東京シティ・フィル、日フィル、パシフィックフィルハーモニア東京、オーケストラ・アンサンブル金沢、大阪響、九響、京響、群響、札響、セントラル愛知響、仙フィル、名フィル、山響、シエナ・ウインド・オーケストラ、東京吹奏楽団、東京室内歌劇場等を指揮。2008~2014年には、N響定期演奏会にてシャルル・デュトワ、チョン・ミョンフン、ファビオ・ルイージ、トゥガン・ソヒエフらのもとで合唱指揮を務め、公演を成功に導く。

2017年からはオーケストラ・アンサンブル金沢、伝統芸能&室内オペラシリーズを指揮し、好評を博している。 2011年~2018年東京混声合唱団コンダクター・イン・レジデンス。

2022年9月よりオーケストラ・アンサンブル金沢コンダクターに就任。

2023年4月より東京音楽大学作曲指揮専攻(指揮)特任講師。

倉敷管弦楽団 / Kurashiki Orchestra





/ℷペーミシ Fa

倉敷管弦楽団は、「美しい音色とよいアンサンブルで質の高い演奏を」を合言葉に 1974 (昭和 49) 年に設立され、今年で 49 年目となります。

年 1 回の定期演奏会では、日本を代表する指揮者や新進気鋭の指揮者を外部から招聘して 研鑽を 積んでおり、その確かな技術と奥深い楽曲の解釈が本楽団の演奏に一層の深みをもた らしています。

また、長年にわたり県内各地域でクラシックの演奏会を開催することで地域文化の向上に尽力するとともに、中国二期会とのオペラ、そして数多くのバレエ、ミュージカル公演や倉敷音楽祭への参加など、多彩な演奏活動を継続しています。

こうした活動により、1982 (昭和 57) 年には岡山県教育関係功労者表彰、1985 (昭和 60) 年には 倉敷市文化連盟賞、2004 (平成 16) 年には三木記念助 成金、2006 (平成 18) 年には福武文化奨励 賞を受賞しました。

本楽団は、これからも倉敷そして岡山県の音楽文化の向上に力を尽くしてまいります。



オーケストラ出演者 / Performers

倉敷管弦楽団

団長・常任指揮者/菊池 東 ソロ・コンサートマスター/佐藤真理子 インスペクター/原田宗範 シニア・マネージャー/岡崎将丈 ライブラリアン/松本喜紹 マネージャー/串部美幸 山口博子 糸島早苗 監事/大西智幸 樋口 仁

1 st ヴァイオリン	佐藤真	真理子	荒木加英子		大西ちひろ		小林	佐知
	越宗	宣子	新谷	敏子	杉山	晃一	◎藤田	真理
	丸山	博樹	三宅	郁子	森安	鋭子	渡邉	陽子
2nd ヴァイオリン	菊池	東	◎上原	保美	奥山	晃子	串部	美幸
	城野	崇彦			鳥越	悠斗	中川	雅美
	林	寛子	平松	綾	山口	拓也		
ヴィオラ	松江	靖子	◎赤塚	佳代	飽浦	良和	岩瀬	裕子
	片山佳央理		武本	克己	野田	卓也	安井	春香
	吉田 典子		中谷理佳子					
チェロ	松江	雄二	大西	智幸	◎栗木⊟	由美子	平松	真弓
	平松	玲子	松本	圭子	松本	喜紹	宮原	勅治
コントラバス	◎糸島	早苗	小埜	七海	野山	広正	本屋類	效勝信
	首藤	恵泉	金田	優里				
フルート	河村	香織	◎月本	裕子	*堺	由美		
オーボエ	瀬尾	祥治	É治 ◎羽井佐浩気		槙尾由利恵		吉田	容子
クラリネット	◎福島	恭子	西島	弥生	松本美	美和子	三木	一弘
ファゴット	◎浅野	絢子	夏目	和歩	*西室	伸也		
ホルン	相澤	弘明	岡田	璃生	熊澤	和美	◎澤田	秀実
	土屋日奈子		西崎	大修				
トランペット	◎原田	宗範	山口	博子	山﨑	雄大		
トロンボーン	樋口	仁	松田英一郎		*大村昌治郎			
テューバ	◎浅野	尚行						
ハープ	*竹村	知子						
打楽器	陶山真紀子		◎関	暢子	*井上	充隆	*難波江	[理奈
運営	山内	邦穂	山口	裕美			,	

Richard Wagner / Die Meistersinger Von Nurnberg: Overture

リヒャルト・ワーグナー

- ■楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」より第1幕への前奏曲
- ■初演:1868 年 ミュンヘン宮廷歌劇場

第49回定期演奏会の幕開けの曲は、ワーグナーの楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」より「第1幕への前奏曲」です。明るく華やかで親しみやすい曲調から、ワーグナーの作品の中で最も人気のある曲の一つです。私自身、オーケストラのテューバ奏者にとって特別な曲であり、学生時代からの憧れの曲であります。

この楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」は、ワーグナーが 1867 年に完成した 3 幕で構成される歌劇です。16 世紀のドイツ・バイエルン州の都市、ニュルンベルクに実在した詩人ハンス・ザックスが主人公です。当時のニュルンベルクでは手工業(靴、ブリキ、金細工、パン作り、服の仕立てなど)が発達し、その代表者たちが芸術(歌唱)に携わり、マイスタージンガー(親方歌手)と呼ばれていました。中世ドイツの市民生活をテーマに、騎士のヴァルターや親方衆、町の人々が登場し、生き生きと描かれています。

また、約10分の「第1幕への前奏曲」には、4時間以上かかる楽劇の要素が巧みに織り込まれています。 冒頭のハ長調の主題の「マイスタージンガーの動機」、親方たちの入場で流れる「ダヴィデ王の動機」、フルートの「愛の動機」、ヴァイオリンの「芸術の動機」などが立体的に絡み合って進行します。曲の随所にワーグナーらしい仕掛けがあり、音楽の展開を楽しんでいただけると思います。

本日は、松井慶太先生の指揮のもと、ドイツ音楽の魅力に触れ、会場の皆様とともに、楽しんで演奏ができればと思います。「倉管のマイスタージンガー」をどうぞお楽しみください。

チューバ/浅野尚行

〈楽器編成〉

フルート 2、ピッコロ、オーボエ 2、クラリネット 2、ファゴット 2、ホルン 4、トランペット 3、トロンボーン 3、テューバ、ティンパニ、シンバル、トライアングル、ハープ、弦五部

Franz Liszt / Poème symphonique No.3 (Les Préludes)

フランツ・リスト/交響詩「前奏曲 (レ・プレリュード)」S.97

■初演:1854 年 ワイマール

本日演奏する交響詩「レ・プレリュード」は前奏曲と訳されますが、単なる前奏曲ではなく、単一楽章の管弦楽曲です。しかも題目(フランス語)は複数形なのです! なぜ?

作曲者フランツ・リスト (1811 ~ 1886) は「ピアノの魔術師」と呼ばれ、超絶技巧を持つ当代一のピアニストでした。オリジナルピアノ曲だけでなく、オーケストラ作品をピアノ曲に編曲して「より広く音楽を世に届けたい」思いでヨーロッパ中、演奏旅行をしていました。

しかし、30代半ば、演奏活動から創作活動へ方向を変えます。ベートーベンが確立した絶対音楽から、 「詩的な想念と音楽形式の統合された標題音楽こそ未来の音楽」と主張、交響詩を生み出すことになります。 この曲は4部構成で標題が付いています。『人間の一生は死への前奏曲』

「輝きを放つ無垢の愛(魂)は嵐によって乱れ、傷ついた魂は穏やかな田園で癒される。しかし、やがてラッパの音が響く中、自らのために闘いへと立ち上がる|

このめぐる地球という星の上で生きる人間たちに起こる様々な運命。

愛、苦悩、慰め、闘い……人間の生きざまを (4シーン) 見事に描いた曲です。あなたも私もここに描かれる「魂」かもしれません。皆様の共感をいただけるのでは?

聞き方のPOINTは曲冒頭の弦楽器セクションで奏される「ド――シミー」の音型が重要テーマ。楽曲全体で、さまざまな変形・変容され用いられています。

いつ変わるとも知れない運命の伏線を感じとれるかもしれません。ご注目ください。

チェロ/平松眞弓

〈楽器編成〉

フルート 3(3 番はピッコロ持ち替え)、オーボエ 2、クラリネット 2、ファゴット 2、ホルン 4、トランペット 2、トロンボーン 3、テューバ、ティンパニ、小太鼓、大太鼓、シンバル、ハープ、弦五部

Johannes Brahms / Symphony No.3 F-Dur Op.90

ヨハネス・ブラームス (1833年-1897年) / 交響曲第3番へ長調作品90

■初演:1883年 ウィーン楽友協会

ブラームスは、64年の生涯で4つの交響曲を書きました。ベートーヴェンが56年の生涯で9つの交響曲を書いたことを思うと、決して数は多くないかもしれません。ブラームスが自身をベートーヴェンの後継者としての意識を強く持っていたと言われ、新しい交響曲を発表するからには彼を超えるような傑作を書かなければという重圧から第一番を完成させるまでに構想から21年も費やしたこと、そのため交響曲が4曲にとどまったという話はご存じの方も多いでしょう。

ブラームスの交響曲は、初めて聴く時には魅力に気づきにくいかもしれませんが、繰り返し触れる度にその人生観や深い響きの虜になるような魅力に溢れています。オーケストラを愛する人なら殆ど誰もが大好きな曲と仰るのではないでしょうか。

今回演奏致します第三番は今から 140 年前、ブラームスが 50 歳の時に自然豊かな温泉地ヴィースバーデンに滞在した時に書かれました。人生の円熟期を迎えたブラームスの描く、情熱も秘めつつどこか抒情的で諦観のような趣を漂わせた曲となっています。

【第 [楽章]

【第Ⅱ楽章】

木管楽器が懐かしい回想のような、もしくは哀悼にも聞こえる抒情的なメロディを奏でます。それに応えてビオラとチェロが温かな響きで語り掛けます。この対話は個人的に大好きな、とっても素敵な箇所です。中低音の弦楽器の響き、楽器達の静かな振動がそのまま心を震わせます。会場の空気の振動をダイレクトに感じ取って頂けたらと思います。

【第Ⅲ楽章】

繰り返し現れる美しい旋律は、どこかで聞いたことがあるかもしれませんし、初めて聴く方もあまりの切なさに忘れられないメロディになるかもしれません。

美しい中間部の後、最大の聴き所でホルンソロが登場します。ブラームス自身がホルンを吹くのが好きで、家族と音楽に興じる時によく演奏したというエピソードも伝えられています。奏法についてはかなり深い知識を持っていたようです。交響曲第一番ではブラームスが敬愛するクララ・シューマンに宛てた重要なメロディ、交響曲第二番でも無理なく吹ける美しいメロディをホルンに与えています。この第三番3楽章の名旋律も、誰よりもホルンの魅力と効果的な奏法を知っているブラームスだからこそ、ではないでしょうか。

【第IV楽章】

不安な心のざわつきのようなファゴットと弦楽器から始まりますが、突然嵐が訪れたかのような激しい展開になります。中間部の高まる熱気のような弦楽器のアクセントと力が漲るような厚い響きの管楽器が聴き所です。内声の三連符が複雑な音型であちこちに途切れなく埋め尽くされ、ブラームスの緻密なオーケストレーションが味わえます。

毅然とした強い意思に支配された緊迫感のある音楽ですが、意外にも次第に賛美歌風の穏やかな様相へと移行していきます。最後に第一楽章のF-A-Fのモチーフが断片的に表れ、瞑想的な雰囲気で静かに幕を閉じます。

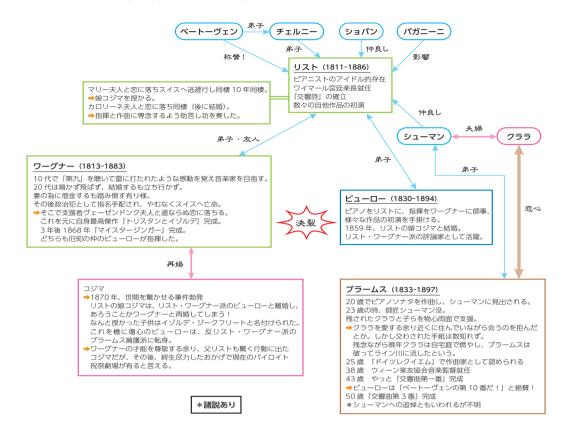
来年で倉敷管弦楽団は創立 50 周年を迎えます。爽やかでダイナミックなタクトの松井先生が今年も導いて下さり、倉管の充実した演奏をお届け出来ることと思います。どうぞお聴きください。

ヴァイオリン/林 寛子

〈楽器編成〉

フルート 2、オーボエ 2 、クラリネット 2 、ファゴ ット 2 、コントラファゴット、ホルン 4 、トランペット 2 、トロンボーン 3 、ティンパ 二、弦 5 部

ドイツロマン派三傑の教科書には載らない話



ワーグナー作曲「マイスタージンガー序曲」は、1868年ワーグナー派の評論家で指揮者のハンス・フォン・ビューローによって初演、好評を博しました。既に「タンホイザー」「ローエングリン」「トリスタンとイゾルデ」など意欲的に大作を発表し、ドイツロマン派を代表する大作曲家でした。その作品の内容の濃さに比例するように、ワーグナー自身の私生活は女性関係に借金に波乱万丈。女優と結婚するも蒸発され放浪、政治的な理由でスイスへ亡命、その後、支援者のヴェーゼンドンク夫人(詩人)と恋に落ち、別れたかと思えば、友人で「マイスター」「トリスタン」初演の指揮者ビューローの妻(リストの娘コジマ)を奪うというスキャンダラスな出来事も。

二人の間に出来た娘はイゾルデ、息子はジークフリートと名付けたとか。その後、並々ならぬコジマの尽力によりバイロイト祝祭劇場が完成したのですから、ワーグナーの才能に全てを懸けたと言えるでしょう。

リスト作曲「交響詩レプレリュード」は、1854年に発表した作品で「人生は死への前奏曲」という観念に基づいています。幼少からピアノをチェルニーに師事。その腕は最晩年のベートーヴェンに称賛された程。その後パガニーニの影響を受け超絶技巧を目指し一躍ピアノ界の寵児となり、ベルリオーズやショパン、シューマンらと親交を深めます。1848年37歳でピアニストを引退しワイマール宮廷楽長に就任、指揮と作曲に専念します。ここでリストが数々の自他作品の初演を行ったことから「ワイマール詣」とささやかれるほど様々な音楽家が足を運んだといいます。このように華々しい活躍を見せるリストでしたが、女性遍歴も華やか。ピアノ界のアイドル的存在であった頃、マリー夫人と出会いスイスへ逃避行、約10年同棲。その時産まれた娘がビューローの、後にワーグナーの妻となったコジマです。マリーと別離後、カロリーネ夫人と恋に落ちイタリアへ(後に結婚)。このカロリーネ夫人が指揮と作曲に専念するよう勧めたといいますから、ある意味素晴らしい功績です。

ブラームス作曲「交響曲第3番」は1883年の作品です。ブラームスは20歳頃ピアノ曲でシューマンに見出されました。その15年後「ドイツレクイエム」の成功で1871年ウィーン楽友協会芸術監督就任。満を持して交響曲第1番を発表したのは1876年43歳、既にワーグナーと袂を分かっていた評論家ビューローは「ベートーヴェンの第10番」と絶賛しました。この第3番は、50歳を待たずに亡くなったシューマンに思いを馳せ、自身が50歳で捧げた作品と言われています。シューマン亡き後、死ぬまで喪服で過ごした妻クララ。そんなクララと子供たちを支援したブラームス。かなり思いが深かったようで30年以上にわたり多くの手紙のやり取りをしています。そしてクララが亡くなると1年もたたぬうちにブラームスも亡くなってしまいます。ブラームスが独身を貫いた理由は…と思わずにはいられません。

19世紀、生きたいように生き、作りたいように作り、愛したいように愛した三者三様の珠玉のドイツロマン派作品は、聴きごたえ十分です。 コントラバス/糸島早苗

練習風景

(くらっカン・インスタグラムより)































●あかつか眼科クリニック

日帰り白内障手術 は当院で

〒710-0834 岡山県倉敷市笹沖 1328-1 tel.086-441-4660

akatsuka-ganka.com

診療時間 月火水木金土

午前 9:00~12:00 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 仟後15:00~18:00 〇 ● ● / ○ /

●…火曜・水曜は 16:00~18:00

体診日 木曜午後 土曜午後 日曜 祝日





代表取締役 菊池東菊池酒造株式会社



奇跡のお酒純米吟醸

燦然特別純米雄町

リイングラスでおい

SANZEN

倉敷の美酒世界十五ケ国で

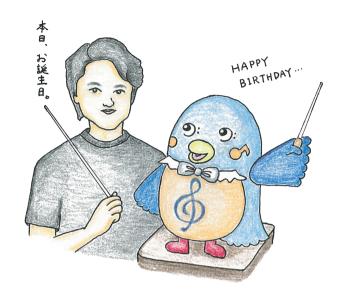


---- 加工品 ----コンフィチュール レーズン

理念

私たちは、 農業に対する熱い想いを持ち、 **『繋がり**』を大切にします。

> お客様との繋がり 将来を担う子ども達との繋がり 農業の未来への繋がり



名前:くらっカン

種別:倉敷市の鳥、カワセミの新種

年齢:永遠の3歳

性格:人見知り、マイペース

(でも打ちとけるとすごく仲良くなる)

言語:岡山弁

楽器:オーケストラの楽器はひと通りできる天才。

好きな食べ物:シガーフライと牛乳

まだまだ調査中!

(アンケートにくらっカンへの質問をご記入いただくと、優先して調査いたします♪)
次回研究結果発表は倉敷音楽祭 (2024 年 3 月) の予定です。
お楽しみに!

